

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

お願い

このところ日本各地で新型コロナウイルス感染者の数が増えてきました。県内を見ても、決して油断できない状況です。学校では先日もお知らせした通りの感染対策を行っていますが、なんといっても集団生活で成り立つ学校教育です。いつ感染者が出るかわかりません。そこで昨年度もお願いいたしました。万が一感染された方が出た場合には、温かく見守る、一日も早い復帰を願う、戻った時には普段通り接する…といった当たり前のことを続けていきたいと考えております。人権第一、保護者の皆様、今後とも協力下さい。



あわせて、5月からは校外行事が始まります。行事实施に当たっては、南アルプス市の学校管理規則に則って行います。今後、行事实施に不安を感じるといった場面も増えてくることも予想されます。交通機関（借入バスなど）の押さえやキャンセルなどということも出てきますので、修学旅行や林間学校だけではなく、当面の間、**バスなどを使って出かける校外行事につきましては、保護者の皆様の同意書をとらせていただくこと**といたしました。お手数をかけますが、よろしく願いいたします。なお、「健康には問題ないが、参加に不安を感じるため同意できない」という場合には、学校での個別学習などにも対応していきます。

授業参観へのご協力ありがとうございました

4月20日～22日にかけて、2学年ずつ授業参観を行いました。県内、特に中北地域での新型コロナへの感染者が増えてきたことから、時間を区切った参観とさせていただきましたが、全家庭の保護者の皆様に趣旨を御理解・御協力いただいたことで、何とか行うことができました。「短い時間で残念」と感じられたかと思われそうですが、何もできなかった1年前に比べ、こうして少しずつでも学校を開けることに喜びを感じております。今後もよろしく願い申し上げます。5月17日からは、家庭訪問が予定されています。今年度は失礼かとは思いますが、ご家庭には上がりず玄関先にて短時間の訪問とさせていただきます。学校側に伝えたいことがある場合は、ぜひまとめておいて下さい。



有意義なGWを

もうすぐGWとなります。国内では三度目の警戒宣言が出された都府県があります。なかなか出かけにくく、今年の連休はちょっとつまらないものになってしまうかもしれませんが、4月から頑張ってきた子供たち、そろそろ疲れも見えてくるころですので、ゆっくり、のんびりもいいかと思えます。何をしなくても家族と過ごすだけで有意義な日々になることでしょう。GW明けにまた元気な顔を見られることを楽しみにしています。その前に、あと数日、もうひと頑張り！

あいさつは人生を変える？

本校では、児童会活動を中心にあいさつ運動が進められています。今年度になってから、地域の皆様から子供たちのあいさつについてお褒めの言葉をいただくことが増えてきました。昨年度の学校だよりでも、何度かあいさつについて書かせていただきましたが、今回は別の視点からです。

あいさつは、世界共通の行動のようで、日本ではお辞儀が一般的ですが、外国では手を合わせたり鼻を使ってあいさつしたりする国もあるようです。昔はあいさつを「言葉かけ」といって、人と出会ったりすれちがったりしたときには、言葉をかけるのが一般的でした。鎌倉時代の武家家訓には「誰であれ目にした人に対しては礼儀としてあいさつをすべき」と書かれています。

さて、あいさつに関してこんな話があります。浅草の東洋劇場に出演していた芸人がいました。なかなか売れないので、演出家が「芸人としての才能がないから辞めさせよう」と言って、この芸人を東洋劇場から追い出そうとしました。それを聞いた周りの人から、「彼のあいさつは快い。辞めさせないで！」と青年を援護し助けようという声が上がりました。その結果、彼はクビになることなく仕事を続けることができました。この話は、コメディアンの大御所である萩本欽一さん（欽ちゃん）の修業時代の実話で、まさにあいさつが人生を変えた話です。



あいさつには、「暗い気持ちを吹き飛ばし、気持ちを前向きにさせる力」「人間関係を良くし、仲間を増やす力」などがあるとともに、この話のように「人生をも変える力」が時にはあるのです。あいさつは「相手を大切に思っている」ことを伝え、人を元気づけたり優しい気持ちにさせたりする魔法の言葉で、ものすごい力をもった言葉です。おまけに、あいさつするにはお金もかからず何の準備もいりません。そして、思い立ったらすぐに始めることができます。百田小のみんなにも、これからこの魔法の言葉どんどん増やしていってほしいものです。

なぜ勉強するの？

2014年のノーベル賞受賞者であるマララ・ユスフザイさんが国連で語ったスピーチの中に「一人の子供、一人の教師、一冊の本、一本のペンがあれば世界を変えられる」という言葉がありました。この言葉は、教育がとても大きな力をもっていること、そして教育を受ける権利がとても大切なことを語っています。また同時に「暴力には何の力がないこと」を伝えています。暴力ではなく、物事を正しく判断し解決する力を身につけるために勉強するのです。周りの人たちを理解し協力し合って、みんなが幸せに、よりよく生きるために勉強はあるのです。

世界には勉強をしたいと思ってもできない子供たちが数多くいます。ぜひ勉強する機会を大切にしてほしいと思います。

「何のために勉強するの？」と疑問を感じたときには、ぜひマララさんのこの言葉を思い起こしてもらいたいです。

